

進路指導の実態調査・研究及び就業体験・学習会等の企画・運営

I 団体の概要

東京都内にある都立肢体不自由特別支援学校 18 校及び、筑波大学付属桐が丘特別支援学校・新宿区立新宿養護学校の進路指導担当教員約 30 名で構成し、年間 7 回の協議会にて、進路指導上の課題検討や情報交換を行っている。また、就業体験や学習会の企画・運営、進路指導とキャリア教育に関する調査・統計を行い、関係諸機関との連携を図っている。

II 研究の目的

- ・進路指導に関する課題の解決や情報共有・共通理解を図る。
- ・就業体験等を企画し、進路先開拓とキャリア教育推進に資する。
- ・諸調査の成果を活用し、関係諸機関と共に進路指導を推進する。

III 研究の内容

- 1 各校進路指導の取組みに関する情報交換
 - ・会場及びリモートによるハイブリッド開催
 - ・肢体不自由のある児童・生徒への進路指導に関する専門性の共有
- 2 各種調査
 - ・地域別在籍者数、卒業生進路実態、各校作業学習の実際、各校進路指導における外部機関活用実態
 - ・多様な学び方や働き方に関する調査・研究
- 3 就業体験
 - ・企業のCSR活動を活用した共同企画
- 4 在宅就労に関する調査・研究

IV 実践事例

1 就業体験「キャリア・メンタリング・プログラム」

ゴールドマン・サックス証券株式会社の協力の下、高等部生徒のキャリア教育の機会として就業体験を実施した。

当日は 10 校から高等部生徒 14 人が参加し、主催「公益社団法人ジュニアアチーブメント日本」進行の下、参加者とのアイスブレイクや会社見学、キャリア・メンタリングに取り組み、他者理解やコミュニケーションの実践、自己理解を深めた。

2 就業体験「日本マイクロソフト株式会社オンライン職場見学会」

日本マイクロソフト株式会社及び日本ヒューレット・パッカート合同会社の協力の下、中学部生徒のキャリア教育の機会としてオンラインでの職場見学会を実施した。

当日は 15 校から生徒約 60 人が参加し、会社様の進行の下、見学やグループワークに取り組み、働く人々との交流や企業の取組などを体験した。

3 在宅就労に関する調査・研究「学習会①」

在宅就労の先進事例として沖ワークウェルから講師を招き、法人の事業や株式会社沖ワークウェルが開発した「ワークウェルコミュニケータ」を活用した「バーチャルオフィスシステム」のデモンストレーションをとおして在宅就労の実際について学んだ。

講師から、在宅就労の検討や就労後のQOL向上へ向け、在学中から福祉サービスを導入しておくことの重要性について助言を受けた。

4 在宅就労に関する調査・研究「学習会②」

令和3年4月に在宅型雇用を開始した、株式会社リクルートスタッフینگクラブから講師を招き、在宅事業や特別支援学校向け「オンラインしごと体験会」について学んだ。

在宅型雇用開始から3年目となる現在、勤務場所や勤務時間、雇用期間等について、在宅勤務社員のニーズを聞き取り、実情を踏まえた就業条件の変更および検討を進めている企業努力等の報告を受けた。

5 在宅就労に関する調査・研究「学習会③」

本協議会では、「在宅就労作業部会」「『進路の手引き』部会」の2つの部会を置き、若手教員育成へ向けた研修機会拡充や進路指導における参考資料の編集を実施している。今年度も「東京都障害者IT地域支援センター」への施設見学や『進路の手引き』の検討を行った。

『進路の手引き』は、若手教員育成のために、平成31年度から検討を開始し、毎年度、文言の精査や内容の見直しなどを重ね、より最新の情報に即した内容となるよう改訂している。

『進路の手引き』

令和5年8月22日改訂

はじめに	p.1
進路指導とは～キャリア教育の観点に基づいて～	p.2
豊かな人生を支える11の観点	p.2
「いつでも・どこでも・だれにでも」が働く豊かな生活の実現	p.2
在学中の「13つのMust」	p.3
社会生活と進路指導をとおして身につけていきたい力	p.3
自立の考え方・授え方	p.4
医療機関との連携	p.4
百聞は一見に如かず！見学・相談のススメ	p.4
障害児・障害者にかかわる法制度の理解	p.5
進路と学校との連携	p.6
生きる力を育む！小学校の進路指導	p.7
自己を知り、選択する力を育てる！中学校の進路指導	p.8
中学校からの進路指導「国公立・私立高等学校の受験について」	p.9
これからの人生を考える！高等学校の進路指導	p.10
高等学校の進路選択 進路ニーズによって十人十色！	p.11
通所するだけじゃない生活スタイル！『障害者学歴』の取り組み	p.11
障害者通所施設の仕事体系について	p.12
障害者福祉区分とは	p.13
医療的ケアの対応が必要な生徒の進路先について	p.13
進路選択・決定には必須！通所施設・企業等での進路指導・相談について	p.14
高等学校3年次 進路決定の手続きについて（東京都立特別支援学校等）	p.15
目指す就職！企業・公務員等の進路希望について	p.17
目指すキャリアアップ！大学・専門学校、障害者就職支援センターへの進学について	p.18
必修・訓練校	p.18
進学	p.19
地域で活動している団体等	p.20
職歴	p.20
あひかり支援について	p.21
あひかり支援センターの役割について	p.21
職業訓練等への進路先について	p.22
別紙1 進路指導担当先生向け「12年間で『進路の土台』を築こう！」	p.26

＜詳しくは＞
本手引きは、進路指導について様々な考え方・授え方の基本から最新の進路情報を集約していますので、進路学習や進路を考える際のツールとしてに活用は可能です。各区同時期で発行している『障害者のしおり・てびき』なども併せてご覧いただく、よりわかりやすく内容を充実させたいです。
また、児童・生徒や保護者からの進路にかかわるご質問については、まずは担任に御相談ください。知りたいたいことや悩むこと等について、担任としっかりと相談しましょう。（進路指導部一問）

東京都肢体不自由特別支援学校
進路指導連絡協議会編集
『進路の手引き』目次

V 研究の成果と課題

研究成果は、次の4点である。

- ①「情報交換」では、事務局が各校の進路指導上の課題を事前集約・整理して会議運営することで、有意義な情報交換や検討を深めることができた。
- ②「各種調査」の活用では、進路指導担当者が学区域内だけでなく、隣接する区市町村や周辺地域の状況についても把握し、進路指導にあたることができた。
- ③「就業体験」は、6つのプログラムを企業と連携し実施した。5年ぶりに参集型で実施したプログラムもあり、生徒や引率教員からは、実際に顔を合わせ交流や学習ができる喜びや有意義さが確認できた。反面、遠隔地の学校からはリモート型でなければ参加が難しい場合があるとの意見が出され、目的や内容と共に開催形式についても検討していく必要がある。
- ④「在宅就労」では、学習会のほか、就労体験を通じた事例研究も進み情報の蓄積が進んだ。

今後の課題は、専門性の向上、調査の更なる活用、在宅就労の実現や希望進路実現へ向けての関係機関との連携、若手育成などである。

<連絡先>

団体名		東京都肢体不自由特別支援学校進路指導連絡協議会
代表者	所属	東京都立鹿本学園
	職氏名	校長 高橋 馨
	連絡先	03-3653-7355
事務局	所属	東京都立鹿本学園
	職氏名	主任教諭 齋藤 信子
	連絡先	03-3653-7355